

教育委員会に関する点検及び評価の報告書

1. 点検及び評価に関する方針について	……	1
2. 教育委員会議等について	……	2 ~ 3
3. 学校教育について	……	4 ~ 8
4. 生涯学習について	……	9 ~ 14
5. 意見書について	……	15 ~ 21

平成31年2月

七ヶ浜町教育委員会

平成29年度七ヶ浜町教育委員会の事務の管理及び 執行状況に関する点検及び評価の方針について

1. 趣 旨

- (1) 七ヶ浜町教育委員会は、毎年策定する教育基本方針に基づく具体的な施策や重点事業等の実施状況について点検及び評価を行い、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図る。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、町民に対する説明責任を果たし町民に信頼される教育行政を推進する。

2. 実施方法

- (1) 毎年策定する教育基本方針に基づく、具体的な施策や重点事業等を対象として、点検及び評価を実施する。
- (2) 点検及び評価については、前年度の施策及び事業の総括を行うとともに、課題や改善策等を明確化する。
- (3) 点検及び評価については、毎年1回実施する。
- (4) 点検及び評価については、学識経験者の意見を聴取したうえで教育委員会がまとめる。
- (5) 教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を作成し、町議会に提出するとともに町民に公表する。

1. 教育委員会等について

平成29年度は、毎月の定例会議12回及び臨時会1回を開催しました。

更に、総合教育会議においては「七ヶ浜町教育大綱」の基本方針や基本目標を確認し、教育委員会の取り組みを説明しながら、町長と教育委員会が相互に連携を図り、効果的な教育行政を目指すことについて共通理解を図りました。

町教育委員の活動方針として、平成19年度より「動く教育委員」、「説明責任のできる教育委員」を掲げており、定例の教育委員会議の日に教育委員が学校を訪問し、校長より「特色ある学校経営方針及び事業計画」、「教職員の勤務状況」、「七ヶ浜・グローバルPROJECT」等の取り組みについて説明を受け意見交換を行いました。訪問時には、授業視察と給食を一緒に食べながら、児童・生徒及び教師を通して各学校における問題や課題を把握し、午後からの教育委員会議を開催するなど、前年度に引き続き平成29年度においても、3.11東日本大震災により児童・生徒へ心や体に影響が出ていないかどうか、細かな現状の把握に努めました。

教育委員については、古田厚子委員が任期満了となり、新たに鈴木博委員が、平成29年七ヶ浜町議会第3回定例会の人事案件で議決を得て、10月1日から就任されました。任期は平成33年9月30日までとなっています。

<学校給食について>

昭和43年2月に建設された学校給食センターは、平成23年3月の東日本大震災により甚大な被害を受け、平成25年4月に解体されました。

現在は、現住所地に新たに建設された学校給食センターにて、平成26年4月より、給食の供用を開始しております。新センターは、衛生面に配慮したドライ

システムを採用し、鉄骨造り2階建て、延床面積1,228㎡、調理能力2,200食を可能としています。また、厨房施設は環境に配慮し、給湯機器をはじめ調理機器類の全てに電化式を配した安全な施設となっております。

給食の内容は、主食に米飯かパン、麺類は月1回の割合で配食しました。また、給食費については、1食あたり小学生から257円、中学生からは308円の食材費を徴収いたしました。

給食の実施回数は、学校給食センター管理運営規則で年間、小学校が170日以上、中学校が160日以上となっています。平成29年度の提供回数は、亦楽小175回、松ヶ浜小175回、汐見小175回となり、中学校については、七ヶ浜中164回、向洋中165回を実施しました。

学校給食をご理解いただくために、亦楽小学校、松ヶ浜小学校、汐見小学校の新入学児童の保護者や他の学年の保護者の方に試食会を開催し、計5回、219名の参加をいただき、大変好評でした。また、食育指導として、小中学校全学年を対象に年間59日、計114回、栄養士が学校に出向き「食べ物を大切にしよう」「上手な食事の選び方」「成長期の食事について」「生活習慣病予防について」などの小中学校、各学年に応じた内容で給食の時間に指導を行いました。

今後とも、児童・生徒の日常生活における食事の正しい理解を深め、健全な食生活を営む習慣が養われるよう学校給食を通じて「食」の重要性、必要性を啓発してまいりたいと考えております。

2. 学校教育について

<学校運営の概要について>

平成29年度は「七ヶ浜・グローバルPROJECT」事業が本格稼働となり、①学力向上、②不登校改善、③英語を通じたコミュニケーション力の育成、④地域学習の充実、⑤地域に開かれた学校を重点事業とした教育の推進を掲げており、教職員の資質・能力の向上にむけて、使命感をもち、責任をもった指導のできる教師を育成するため、教育長自ら授業参観を実施し、具体的な指摘をしております。

不登校対応は、26年度より学校教育支援センターを開所し、各学校と連携を図りながら不登校児童生徒が学校生活に復帰できるよう、29年度も継続して支援しております。

<児童生徒数の動向について>

児童生徒数では、平成29年5月1日現在で、小学校の児童数が968人で、前年度と比較し19人の減少であり、中学生の生徒数が556人で、前年度と比較し12人の減少となり、小中合わせて31人の減少となりました。

この減少数の原因は、震災による影響もありますが、自然減によることが大きな要因と思われます。

<七ヶ浜・グローバルPROJECT事業の推進>

七ヶ浜・グローバルPROJECT事業は、『学力向上』、『不登校改善』、『英語を通じたコミュニケーション力の育成』、『地域学習の充実』、『地域に開かれた

学校』、の5つの柱で構成しております。また、小中連携を図りながら、児童生徒に対し、心身ともに健全な児童・生徒の育成を目指し事業に取り組んでおります。

『学力向上』では、学力の定義を「考える力」とし、全教員が目的意識を持ち「適切な本時目標」「考えさせる授業の構成」「振り返り」「下位群の底上げ」の授業改善に取り組み、授業研究と事後検討会の充実を図っております。

教員各々が授業に当たる上での共通理解として、目的意識（本時目標）の明確化を図ること、考えさせる場面を設定すること、授業の終わりに振り返りを行うこと、下位群の児童生徒の底上げを共通理解として取り組んでおります。

研究授業においては、4観点による事後の検討会を行なっております。

授業検討会において本時目標、授業のねらいの達成について検討し、あえて厳しい目線で課題を見出し、その改善方法について意見交換をするなど、磨き合う検討会となるようにすることを申し合わせて実施しております。

研究授業以外でも、互いの授業を見せ合い、ベテラン教員の良さや工夫を参考にして学び合うことや、新たな取り組みを実践する教師の指導法を検討し、磨き合いを通して全教職員の資質向上につなげる環境づくりをしていくことに努め、学力向上を図っていきたいと考えております。

『不登校改善』では、学校教育支援センターを設置し、不登校児童生徒の学習支援や相談業務を充実させ、再登校に向けて取り組んでおります。さらにその他にも各学校は、不登校問題対策委員会を中心に共通理解を図り、環境・条件整備・仕組みを創り、不登校の改善に取り組んでおります。

『英語を通したコミュニケーション力の育成』については、文部科学省より教育課程特例校の指定をうけた小学校では、1年生から6年生まで全クラスにおい

て週1回、ALTをT1とした担任教師とのTTによる授業を行い、児童のコミュニケーション力の育成を実践しております。また、中学校においてもコミュニケーションを意識した英語の授業の展開を進めております。更に、地域住民等にも授業を公開したところ、多数の参観者があり関心の高さがうかがえました。今後も学年齢にあった、明るく・楽しく・面白い授業にこだわり、児童生徒のコミュニケーション力の育成に取り組んでまいります。

『地域学習の充実』については、児童生徒の発達段階等を考慮して、中学校は主に震災関係について、小学校は地域関係や防災学習として、防災科学研究所みやぎ福祉・防災情報化機構からの協力を得て、災害が起きた時の避難の仕方を学び、防災マップを作る活動を通して防災意識を高める啓発に取り組んでおります。

『地域に開かれた学校』では、小学校区ごとの「小学校・地区民合同大運動会」を開催いたしました。学校が主体となり、地区民種目については各地区の区長が中心となり、その補佐として小中学校教員や役場職員を配置し、学校と当該学区民と町役場が協力、連携し大運動会の実施となりました。幅広い地区民が参画できる開かれた学校創りをとおして、活力ある地域社会と文化力を培うため、今後も事業の充実に努めてまいります。

また、特別支援学級又は普通学級の支援が必要な児童生徒の安全確保要員として、臨時支援員を各学校に配置しました。中でも、亦楽小学校と汐見小学校については、対象児童の増加により他校より1名増員し、2名の配置としました。

<児童・生徒及び教職員の事故防止と安全確保>

「七ヶ浜町 通学路交通安全プログラム」の取り組みにより、学校を含めた関係機関での通学路合同点検を行い、危険個所の対策と改善を実施しています。

また、各学校に防災主幹又は防災主任を配置し、学校防災の教育組織体制を整備し、防災安全活動に取り組んでおります。

防災安全活動会議を開催し、既存の防災計画を見直し、緊急時における教職員の動員体制や校内災害対策組織の担当や業務内容を整理するなど、緊急時に速やかに対応できるように、既存の防災マニュアルの見直しと整備、防災用品の配置場所等の確認を行っております。

また、防災マップ作りでは、町内小中学校、七ヶ浜町防災対策室、教育総務課、町社会福祉協議会、みやぎ福祉・防災情報化機構、防災科学技術研究所との連絡調整等地域及び関係機関との連携を図っており、防災マップ作成を通じ危険箇所の把握や、災害時の避難路、避難場所等を相互に情報の共有化を図ることができております。

今後も、家庭・地域・関係機関と連絡を密にし、児童生徒への防災安全教育を推進して参ります。

<学校教育支援センターの充実と学校との連携活動>

平成26年度に学校を長期にわたり欠席している児童・生徒等が安心できる居場所づくりをしながら、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善のための相談・適応指導学習指導等を行い、学校復帰を支援し、不登校児童・生徒の社会的自立に資することを目的として「七ヶ浜町学校教育支援センター」（以下「教育支援センター」という。）を設置いたしました。

平成29年度においても、これまで同様、生涯学習センター内に毎週火曜日から金曜日の午前9時から午後3時まで開所し、不登校児童・生徒などの教育相談や学習支援などを行いました。不登校児童生徒数については、平成29年度末に

において3名、年度内に不登校や不登校傾向から登校へと改善された児童生徒数は10名となっており成果を得ることができました。さらに、通所者の高校進学や他と関わりを持つことができなかった生徒の人間関係の構築、生活習慣の改善、相談件数の増加など成果をあげることができました。教育支援センター、学校、保護者、児童生徒との連携が図られ、適切な取り組みが出来たことによるものと考えております。

引き続き、不登校児童生徒の対応や登校渋りの傾向のある児童生徒の早期対応、各学校へ出向いての支援などに取り組んでまいります。加えて、難しい課題として、自宅から出ることもできない児童生徒への対応がありますが、取り組んでまいります。また、心理的に不安を抱えている保護者が少なからずおりますので、教育支援センターを積極的に利用してもらい、学校と教育支援センターが協力し保護者を支え、相談や自立に対し支援していきたいと考えております。

3. 生涯学習について

生涯学習につきましては、平成23年度に策定された「七ヶ浜町長期総合計画」の「うみー自然との調和」「ひとー人間らしく生きる」「まちー快適で住みやすい」をキーワードに「自然との調和により、人間らしく生き、快適で住みやすいまちづくり」を基本理念とし、教育分野以外の各種計画と連携を図りながら推進して参りました。

生涯学習の推進につきましては、生涯学習センター（中央公民館、図書センター）、西部地区公民館、歴史資料館、老人福祉センター及びスポーツ関連施設を拠点として、生涯学習機会の充実、生涯スポーツの振興及び生涯学習施設の有効活用などの諸施策により各種事業を展開いたしました。

本町の生涯学習の拠点施設である生涯学習センターは、団体やサークルが文化活動や生涯学習活動を活発に行っていただく活動場所として、快適にご利用いただけるよう、普段から施設の点検などを行うなど適切な施設管理に努めており、多くの方々にご利用いただいております。

なお、事業執行に際しましては、社会教育委員会議を開催し、社会教育・社会体育のみならず本町の生涯学習の推進充実に対してのご提言、ご助言をいただいております。

<社会教育事業>

社会教育事業では、「生涯学習機会の充実」「芸術文化活動の振興」「歴史の保護・継承」「国際・国内交流の推進」の4つの重点施策の元、8の重点事業を掲げました。

趣味・教養講座は16講座を開講し、のべ771人の方に受講していただきま

した。また、昨年度より2団体減少した44団体の生涯学習グループに、482人の方々が登録し活動しました。3月に開催された生涯学習フェスティバルでは、2日間で2,645人の来場者で盛況の中、出展・出演者の皆様には、日頃の活動の成果の発表の場として力作の展示や華やかな演舞を披露していただきました。

また、家庭教育・青少年教育などの各種事業については、育児ゆうゆう広場や家庭教育セミナー、インリーダー研修会や合宿通学、保育体験などの事業を、講師やボランティアの方々の協力を得ながら実施することができました。

歴史資料館事業としては、だいき歴史体験、大木囲貝塚桜紀行、桜見学会を開催し、また、二市三町共同での親子土器作り教室も実施しました。

地域間交流事業では、山形県朝日町で山のつどい、本町で海のつどいを開催し、相互の小学生を中心に、本町からは93人の方が参加しました。本町での海のつどいは、松ヶ浜の砂浜での浜遊びを行いました。七ヶ浜町の特色である「海」での活動ができたことは、大変うれしく思います。

図書センターは、読み聞かせ関係の事業も充実してきており、ボランティアさんによる、小学校や保育所での読み聞かせや、町主催の子育て支援事業「親子すまいるフェスタ」での読み聞かせも開催しております。さらに「おはなしかい」を中央公民館で開催、「ミニミニ移動図書館」を、子育て支援センターで開催し、子供の情操教育に役立てていただいたと感じております。

なお、図書の貸出総冊数は26,411冊で、貸出人数は延べ8,047人となっております。

また、「地域学校協働活動推進事業」にも積極的に取り組みました。この事業は、家庭・地域・学校が協働して子供を育てる仕組みづくりを行い、地域の教育力の

向上や活性化、地域全体で子供を育てる環境作りを図るものです。平成29年度は、家庭教育支援活動で、家庭教育セミナー「子育て&親育ち応援講座」、学校支援活動では町内3小学校での登下校の見守り、ミシンや柔道授業時の補助等を行い、地域活動としては、自然体験活動や交流体験活動の補助を実施しております。なお、それらに関わるコーディネーターの養成も一つの事業として行っています。

今後も、出来る限り利用者の要望に沿った事業、学習機会を提供し、生涯学習活動の普及を図り、参加者に充実感、満足度を高めていただけるような工夫をし、効率的な運営が図れるよう考慮して事業執行をしていきます。

<社会体育事業>

社会体育事業は、レインボースポーツプランを基に、スポーツ施設の整備と充実、指定管理者の指導、地域横断型イベントの充実、生涯スポーツプログラムの提供を図っていくことを重点事業としています。

まず、スポーツ施設の整備と充実に関しましては、平成29年度全国高校総体（南東北インターハイ）サッカー競技会場としてサッカースタジアムが使用され、全国規模の大会を七ヶ浜町で行うことで七ヶ浜町のスポーツ施設の充実さをPRすることができました。七ヶ浜健康スポーツセンター「アクアリーナ」においては、町民の皆様が安全安心な環境で、体力向上や健康増進に取り組めるよう努めてまいりました。

次に、指定管理者への指導と支援では、スポーツ施設を特定非営利活動法人アクアゆめクラブに、七ヶ浜健康スポーツセンター「アクアリーナ」を株式会社グラン・スポールに、それぞれ指定管理者を指定し施設の管理・運営をしております。指定管理者とは月一度の定例連絡会議を開催し、施設の利用・経理・営繕等

の状況に関する統計資料の提出と聞き取りを行い、必要に応じて指導・助言を与える機会を設けながら施設運営にあたっております。施設利用者数に関しては、アクアリーナ利用者の微減は見られましたが、サッカースタジアムが全国高等学校総合体育大会サッカー競技の会場として使用されたこともあり増加となり、各施設の利用者数は概ね震災前の水準に回復しています。

次に、地域横断型イベントの充実については、恒例の地区対抗野球大会、町民綱引き大会を開催し、町内の地域間の交流や地域コミュニティづくりなどに貢献できました。また、人気行事である子ども会育成会主催のドッジボール大会を共催することで少年スポーツの活性化を図りました。

最後に、生涯スポーツプログラムの提供については、「生涯学習出前セミナー」の機会を活用して、スポーツ推進委員を派遣し、地域の各種団体等にニュースポーツの普及を図っています。また、総合型地域スポーツクラブ「アクアゆめクラブ」による各種スポーツ教室や、アクアリーナによるレッスンプログラムの開催などにより、町民の健康づくりのサポートに貢献できたと考えております。

今後も、東日本大震災からの復興に向け、住民が、自主的、積極的に参加できるようなスポーツプログラムの開発と、コミュニティの再構築に向けた大会・イベントなどを企画し、生涯スポーツの推進を図っていきたくと考えています。

<公 民 館 事 業>

地域交流活動の充実では、花と緑のまちづくり事業として、春秋併せて合計49,850本の花壇用苗を購入し全地区に配布し、地域づくり、環境美化の推進を図りました。

次に学習事業等では、成人対象の各種講座教室は、16講座・110回の開催で、受講者129人、のべ771人の方に受講していただき、個人の趣味・教養

を高める場として好評を得ております。

「生涯学習推進のつどい」では、(一社)日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ氏を講師に招き、環境教育をテーマに講演会を開催し、多くの皆様の参加がありました。

出前セミナー、学習活動への支援での「生涯学習まちづくり出前セミナー」には視聴覚教材を利用した映画鑑賞会やニュースポーツ、企業の協力によるメニューである製油所見学など計27回実施し、地区の子ども会をはじめ様々な団体から、のべ1,397人の方に利用していただきました。

「生涯学習グループ活動支援事業」では、44団体、482人の登録で、昨年度より団体数2団体、登録者数33人の減少となっておりますが、中央公民館等には多くの方が来館し、楽しく、賑やかに、そして真剣に活動している姿が日々見受けられます。

<歴史資料館事業>

歴史資料館を拠点に地域の歴史や文化について学び、体験する機会の提供と文化財保護意識の向上を図るための事業を展開いたしました。

歴史資料館事業として、だいき歴史体験デーを2017年8月6日に開催したところ、小学生の親子125人の参加者があり、石のアクセサリ作りなどを体験していただきました。資料館ワークショップとして、縄文風ランプカバー作り(10月21日)、リース作り(11月25日)、土器片クッキー作り(1月28日)を開催し、のべ29名の参加者がありました。

平成29年度から新事業として開催した企画展「松島湾三町文化財展」(七ヶ浜会場 12月2日~2月4日)は、三町が所蔵する貴重な歴史や文化財について展示、紹介する巡回展で、七ヶ浜会場では松島町と利府町の資料を展示しまし

た。期間中489名の来館者があり、近隣の歴史や文化財を鑑賞していただきました。

また、毎年開催しております大木囲貝塚桜紀行も好評をいただいております。期間中、桜の写真パネル展や見学会、ワークショップを開催しています。

今後も文化財の広報、活用、展示のあり方を工夫し、文化財保護意識の向上を図る事業を実施いたします。

<老人福祉センター>(町長部局の補助執行)

老人福祉センターも主催事業や各種講座等を実施しました。年間の利用者数は5,790人で、前年度より約1,260人の減、入浴利用者数は1,299人で約440人の減でした。

町内を地区ごとに2つのグループに分け、火曜日から金曜日まで曜日を決めて、災害公営住宅居住の利用者の利便性を考えたルートと乗降場所での送迎バスを運行しております。

また、健康増進のための事業として、春にグラウンドゴルフとゲートボールの各大会、レクリエーション事業として、利用者のつどい、囲碁・将棋大会を開催いたしました。教養教室は、「四季さがし」「健康倶楽部」を実施し、合わせて30回開催、のべ585人の参加者がありました。

今後も高齢者の交流の場として、また、充実した時間を過ごす生きがいづくりの場として、利用者のニーズにあった事業の展開を図っていきたいと考えています。

意見書

はじめに、

あの未曾有の大震災から早8年になろうとしています。町の復興は関係各位のご尽力により最終段階に入り、これまで地域コミュニティの拠点である地区避難所や災害公営住宅、防災拠点施設として整備された生涯学習センターなどが完成したことにより、新たな生活が始められたことはうれしい限りであります。

平成28年度から平成29年度への繰越事業でありました、町内3小学校のトイレ改修工事が完成するなど、学校施設の環境整備の充実が図られたことは、これもひとえに関係各位のご尽力のたまものと、心から敬意を表します。

1. 教育委員会議等について

七ヶ浜町教育委員会の伝統的活動を保ちながら、「動く教育委員」「説明責任のできる教育委員」として、定例会時にできるだけ学校に訪問し、授業視察や学校長との意見交換を活発にされていることは好ましく有意義なことと感じています。

震災による児童、生徒への心身の影響にも配慮しつつ、毎月の定例会議を各学校を主会場として開催し、同時に「七ヶ浜・グローバルPROJECT」を中心とした学校側との積極的な意見交換等や授業視察を効率的に実施しており、学校の現状をつかみ連携を図ろうとする努力が伺えます。

また、町長を中心とした、町当局側との相互連携及び共通理解を図るなどの工夫も見られ、今後においてもなお一層の連携強化等を期待します。

常に児童生徒に寄り添う、教育委員会の取り組みを高く評価し、さらなるご活躍を期待します。

<学校給食について>

学校給食を理解して頂くための、保護者を対象にした試食会で好評を得たことや、食育指導として小中学校全学年に栄養士が学校に出向き、給食の時間に小中学校各学年に応じ、「成長期の食事について」などと題しての、給食で使われている食材、食べ物の働き、成長期の食事などの食育指導を、計114回も行ったことを評価いたします。

食に対する考えが多様化し要求も高くなっていく中、食を通しての更なる指導や給食の充実を図り、今後とも命をつなぐ食の大切さの啓発をお願いいたします。

2. 学校教育について

<学校運営の概要について>

七ヶ浜中学校の新校舎が平成26年に完成し、更に震災仮設住宅の集約により、校庭の仮設住宅が撤去され、学校施設の震災からの復旧工事が完了し、通常の学校生活を送れるようになりました。

また、「七ヶ浜・グローバルPROJECT」事業が本格稼働し進化を遂げ、平成26年度から開設している学校教育支援センターは、平成29年度も継続され、不登校児童生徒に対する取り組みは、これらの減少につながって着実に成果を上げています。学力向上などや不登校対策を重点とした町当局の取り組みを高く評価し、更なる対応に期待いたします。

<児童生徒数の動向について>

小、中あわせて28年度は68名、29年度は31名の児童生徒の減がありました。震災の影響もありますが自然減によるものが大きな要因と思われ、今後の

動向を注視しながら、学校運営をお願いいたします。

<七ヶ浜・グローバル PROJECT 事業の推進>

平成28年度より取り組んでいる「七ヶ浜・グローバル PROJECT」は、引き続き ①学力向上 ②不登校改善 ③英語を通したコミュニケーション力の育成 ④地域学習の充実 ⑤地域に開かれた学校 の5つの重点施策を掲げ、前年度より全体的にレベルアップした取り組みを実践していることが伺えます。

『学力向上』においては、授業研究と事後検討会の質の向上を積極的に図っており、今後の学力の向上に期待したいと思います。

『不登校改善』においては、学校教育支援センターを中心に、引き続き成果を上げているようであり、全国的に不登校が増加する中、学校等と連携した取り組みを展開していることを評価いたします。

『英語を通したコミュニケーション力の育成』においては、ALTをT1とするなどの独自の事業展開が実を結びつつあり、明るく・楽しく・面白い授業も、父兄や地域の方々に知られるようになってきており、今後の展開を期待するものであります。

『地域学習の充実』においては、特に命を守る防災意識の重要性は非常に高いことから、震災後被災地として年々その重要性が薄れることなく、今後もなお一層の取り組みをお願いいたします。

『地域に開かれた学校』においては、「小学校・地区民合同大運動会」が地域などを巻き込み実施し成功したことに対し、関係者の皆様に敬意を表し評価したいと思います。今後におきましても各学校等と共に工夫を重ね、より充実した運動会に発展していくことを希望いたします。

<児童・生徒及び教職員の事故防止と安全確保>

東日本大震災の経験を踏まえ、児童生徒の安全を考えると、防災安全教育の推進を図っていくことは非常に重要です。

以前より各学校に防災主幹又は防災主任を配置しており、既存の防災計画の見直しや、緊急時の教職員の動員体制等、緊急時に速やかに対応できるように防災マニュアルの見直しや、防災用品等の配置場所の確認も行っており、評価するものであります。

また、防災マップを作る過程において、様々な知識が身につき波及的効果も生まれると思いますので、今後も是非継続してほしいと思います。

<学校教育支援センターの充実と学校との連携活動>

平成26年度より、不登校対策として、生涯学習センター内に「七ヶ浜町学校教育支援センター」が設置され、このことにより不登校児童生徒数が、毎年減少し、平成29年度も継続して事業を行っていることで、年度内に不登校や不登校傾向から登校へと改善された児童生徒数は10名となり、大きな成果があったことを高く評価いたします。

このことから、引き続き不登校児童生徒を減らしていくために、学校教育支援センター、学校、保護者、児童生徒などがより連携を図り、不登校児童生徒や不登校傾向の児童生徒への早期対応、親を支える体制づくり、ネットワークづくりの支援、心理的不安を抱えている保護者の相談や自立に対し、今後も継続した支援をお願いいたします。

3. 生涯学習について

<社会教育事業>

「生涯学習機会の充実」「芸術文化活動の振興」「歴史の保護・継承」「国際・国内交流の推進」の4つの重点施策と8の重点事業を掲げ、成果を上げていることを評価いたします。

地域間交流事業においては、「友好の町」山形県朝日町で山のつどい、本町で海のつどいを開催し例年交流を深めていますが、今後においても更なる交流の発展を期待いたします。

また、全国的に図書館に対し注目度が高まっている昨今、町の図書センター事業も様々な仕掛けが見受けられます。地元根ざした図書事業に今後も期待したいと思います。

これからも利用者の要望に沿いながら、学習の機会と事業を提供し、住民の満足度を高める生涯学習の普及をしていただきたくようお願いいたします。

<社会体育事業>

レインボースポーツプランを基に、スポーツ施設の整備と充実、指定管理者の指導、地域横断型イベントの充実、生涯スポーツプログラムの提供を図っていくことを重点事業と掲げ、成果を上げていることを評価いたします。

また、指定管理者である株式会社グラン・スポールと特定非営利活動法人アクアゆめクラブとの連携や指導・助言などを今後ともより一層高めていただき、利用者増加と満足度の充実を図っていただければと思います。

地域の少子化などの影響により、年々各種大会・イベントなどの開催もご苦労が多いかと思いますが、地域の現状を把握しつつ工夫を図り、町民側にたった大

会などの企画・運営を今後も行っていただければと思います。

<公民館事業>

地域交流活動の充実では、地域づくり、環境美化の推進のためにも、今後とも大変かと思いますが継続して活動していただきたいと思っています。

学習事業等では、成人対象の各種講座教室については、延べ771人が受講しており、個人の趣味・教養を高める場として好評を得ていることを評価いたします。

「生涯学習推進のつどい」での講演会開催や、出前セミナー、学習活動への支援での「生涯学習まちづくり出前セミナー」には、視聴覚教材を利用した映画鑑賞会やニュースポーツ、企業の協力によるメニューである製油所見学など計27回実施し、延べ1,397の方が利用するなど、今後とも更なる充実を期待いたします。

「生涯学習グループ活動支援事業」では、昨年度より団体数で2団体、登録者数33人の微減となっておりますが、地域住民の活動拠点として大きく貢献して頂きたいと思っています。

<歴史資料館事業>

歴史資料館を拠点に、地域の歴史や文化について学び、体験する機会の提供と文化財保護意識の向上を図るための、様々な事業展開を評価いたします。

だいき歴史体験デー、各種資料館ワークショップ、企画展「松島湾三町文化財展」、大木囲貝塚桜紀行などの開催は、工夫や向上性が伝わってきます。

今後もお一層、文化財保護意識の向上などに、貢献していただくことを期待いたします。

＜老人福祉センター＞

主催事業や各種講座等を実施しており、年間の利用者数は5,790人で、前年度より約1,260人の減、入浴利用者数は1,299人で約440人の減と減少傾向ですが、高齢化社会イコール需要が多いとは限らないとは思いますが、今後の工夫を期待いたします。

健康増進事業としての各種大会や、レクリエーション事業としての囲碁・将棋大会をなどの開催しており、また、「四季さがし」「健康倶楽部」の2教室を30回開催し、延べ585人の参加者があり、今後における発展に期待いたします。

老人福祉センターの事業においては、年間の利用者が前年度より減少しているものの、健康増進のための事業とレクリエーション事業では、多くの参加者があり、今後も高齢者の交流の場として、また、充実したひと時を過ごす生きがいくりの場として、利用者のニーズに沿った事業展開を期待したいと思います。

平成31年2月1日

学識経験者

元七ヶ浜町教育委員

古 田 厚 子